

萩往還道しるべ

平成元年国指定史跡、8年に歴史の道百選、13年夢街道ルネッサンスに認定

浜松から山口市までの行程を調べました。8時間から9時間の行程です

ちなみに元禄6年の参勤交代の様子 3月3日に朝7時に萩城を出発してすぐに首途(かどで)の祝を受け7種のお菓子を食べて出発し、昼前には佐々並に到着、午後5時に山口着、翌4日午後2時に三田尻着、6日に乗船して伏見に16日着、4月3日午前11時にやっと江戸に到着だったそうな(参勤交代の費用が総経費の20%)
国木田独歩

国木田の父が萩裁判所に2年勤務していたので独歩も山口中学の長期休暇には萩に帰っていた、この頃の徒歩で帰省していた様子を(絵の悲しみ)に書いている

明治期のこの道にあった茶屋では菓子、もちが一銭、お茶だけが1厘、わらじが3厘、途中暗くなり提灯のないものはたいまつを茶屋で購入

この御案内は駐車場、トイレ、休憩ポイント、迷う所など歩くことを中心に調べました。歴史等は他にありますので省きます。歴史に関する詳しいことは事前に調べられてから歩かれると面白いと思います。

持っていくと便利なもの

- 三脚(歩いている後姿を一緒にとると雰囲気が出る)
- ウエットティッシュ(水のないところがあるので重宝)、ティッシュ
- おにぎり、ドリンク、飴玉等(しばらく何もないとこが続いたりお昼を食べるのにいいところがある)
- タオル(水場に降りられる所があるので便利)
- ストック(石畳が多いのでこけやすい、取材中も以前にこけた人が杖を持って入っていた。捻挫して下りてくるのに苦労したそうです)

駐車場 梅林公園、有料道路入口、佐々並道の駅、国境の碑、天花の棚田を降りたところ

注意点

- 人けがないところがあるのでそれなりの装備を持って入る。
- 低山の装備程度でいいと思われる。
怪我をしても一人の場合は人家までの距離があたりするので無理をしない。川に降りられる所も人の出入りが少ないのでコケが多いので滑らないように注意されたほうがいい。
- 基本的には山の中を歩くので雨具の用意があったほうがいい。



迷うポイント

- 明木の一升谷入口
- 竹林公園から国道左に渡るところ

- 落合の石橋
- 佐々並から度々国道に出たり入ったりするので注意

トイレポイント（涙松から山口まで）

- 萩有料道路入口
- かせが坂
- 乳母
- 一升谷、根の迫橋（自然の水が流れている。ペーパー完備）
- 落合の石橋より先の坂を上がったところ
- 佐々並の町に入り突き当たりに世代間交流広場（トイレあり）
- 首切れ地藏、石風呂
- 六軒茶屋跡

行程

涙松からかせが坂一里塚を経て女体解剖跡地、大屋刑場跡（天保の大一揆（1830年）の有罪161人中死罪10名の人達もここで処刑されました。この時ではないかも知れませんが高杉晋作も処刑を見に来たことがあるそうです）失礼がないように御通り下さい（涙松から25分）

有料道路入口、松陰記念館（無料）を経てかせが坂駕籠建場、峠を下りて国道を渡り左の石

畳の道を下りていく。明木（畑仕事をしている人がいたら気軽に挨拶してみよう、暑いときは「暑うありますの」と方言で挨拶が返るかも（明治24年の大火でほとんど消失したがほぼ往年の町並みが形成されている）明木橋、中所橋から300M明木市に進むと殉難3士の碑（進行方向から国道の方に戻る感じで国道脇に小さな案内が出ている、小さな階段を上がったところにある（俗論派（恭順派）とこれに不満の高杉晋作率いる諸隊（正義党）これに同情的な鎮静会議員（中立派）が藩主を説得し処分を寛大にすることになり4人が山口に出向き諸隊を説得し帰るところを橋の下に隠れていた刺客に襲われ3人が死亡。襲われる前に明木の煮売屋で晩御飯を食べ宿駅乗り継ぎの駕籠に乗り換え出発、これを同じ店で様子をうかがっていた刺客の一味も後を追った。権現原に差し掛かるところで駕籠の左右から白刀を突きこんだ、一人江木だけは駕籠かきが駕籠を落としその勢いで転がり出た、8人の駕籠かきは夫（ぶ）のものでございます、お助け、お助けと叫び山中に逃げた、これに混じり江木もお助けと叫び山中に隠れ萩に無事帰れた。犯人の中に一人力士がいて後にこの力士が怪我をしているのが発覚し7人が捕まり野山獄で処刑された）乳母の茶屋、一升谷入口（黄色

い看板の商店を左折）ここでよく見てないと通り過ぎるので注意（有料道路より70分）

一升谷入口から町田梅之進自刀の地（西南の役の時に合流しようとして当時萩の乱で自宅禁固中であつたが山口県庁を襲撃しようとしたが仲間の密告により警察に捕まるが、同士がこれを襲い山口に向かう勢いを見せた。これに実戦経験者の県庁軍が向かい佐々並で遭遇、一升谷で町田の本隊に遭い抜刀して突進してきた町田にピストルで応戦こめかみを撃たれた。ここまで退いてきて自刀した、近くに行者の墓もある（明治10年この地で死亡）案内を読みながら少しゾクッとするかも）山に入り横を小川（茶屋川）が流れ水音が心地良い

所、途中降りられるところもあるがこけがあるので一步一步慎重にどうぞ、金ヶ浴（きんがえき）埋蔵金伝説のある所、根の迫橋（2.5M）を渡りすぐにトイレ、休憩所がある。ここから急坂を登り峠に着く（一升谷入口より60分）

下りきると棚田があり景色がいいので休憩するのがいい所。横切る国道の下をくぐり再びゆっくりした登りになる

御駕籠建場跡、桜茶屋跡の看板が左に見えてくる。しばらくすると左に中ノ峠一里塚が見えその先で左に曲がり登りきると竹林公園に出る。

国道を右に曲がり少し下ったところの道を渡り左に曲がる道の手前に往還の道が出てくる。石畳の道を下りしばらく行き一度国道に出るがしばらくして左に降りるので注意（坂の下に300M先行き止まりの看板があるので降りて右に入る）

しばらく歩き左に曲がり落合の石橋を渡る（よく見てないと通り過ぎる）その先右に細い道を下り少し登ったところにトイレある。しばらく上りでそのまま佐々並に入る。（桜茶屋より80分）

佐々並（萩の乱で消失）の町に入り突き当たりに世代間交流広場（トイレ、手洗い、ベンチあり）があるここを左折

佐々並一里塚を経て貴船神社の石段の前を通り民家の横を左に上がりしばらく土の道を歩き国道に下りる。左に国道をしばらく歩き右に下りる道標を下りる、今度は左に上る。少し石畳を上り再び国道に戻る、右に下りる道標から下りるとすぐに左に曲がり前方に首切れ地蔵、石風呂が見えてくるここにトイレがあるが手洗いの水は当時出ていなかった。ウェットティッシュが必要（佐々並より60分）

また国道62号に下りてきて右に曲がるしばらく国道の単調な道を歩くと緩やかなカーブの左に上長瀬一里塚、その先に逆修石がある。勾配がきつい坂道を上ると夏木原キャンプ場が見えてくる

県道を左に土の道を上りきると国境の碑がある。ここに左に上る小さい道はわき道なので入らず、階段を下りて（駐車場がある）向かい側に国道をまたいで右に上る階段を上る。突き当りを左に下りる（右はくま注意の看板）下りきるとまた国道になり右に曲がりしばらくすると左に階段が出てくる（ここから山口まで土の道になる）

きんちぢみの清水（大正初年までところてんを清水で冷やし通行人に売っていた、味付けはしょうゆと砂糖の2種類）を経て蛇行する道を下ると一貫石が出てくる。その先に六軒茶屋跡がある。ここが萩往還の真中復元した建物がある。下にトイレあり。（佐々並より3時間）

県道を越えて一の坂四十二曲がりを降りていくと天花の棚田が見えてきれい。下りた右に駐車場がある。一の坂ダムを右にして9号線に突き当たる。（佐々並より3時間40分）



乳母の茶屋



かせが坂



一升谷入口（黄色い看板のところを左折）



竹林公園より国道を渡り写真左を降りる



落合の石橋を渡る



右に下り右に登るとトイレ



佐々並の町を抜けこの民家の左の坂を上る



国道からここを下り右に入る



国道から右に入りすぐに左に



首切り地蔵が見えてくる



キャンプ場からしばらく上り左に国境の碑へ



国境を前に下りて向かいの逆方向の坂を上る



国道からこの坂を上る



六軒茶屋跡



六軒茶屋跡